



人形劇団

ブク

主催：(公財) 玉村町文化振興財団

エルマーの ぼうけん

飛びたとう！
エルマーと一緒に！



原作／R.S.ガネット
翻訳／渡辺茂男 (福音館書店刊)
脚色／川尻泰司
演出／柴崎喜彦
美術／マイヤ・ペトロヴァ
音楽／富貴晴美

日時／ 2021年2月28日 **日** 14:00 開演 (13:30 開場)

会場／ 玉村町文化センター「にしきのホール」

チケット料金／【全指定席】一般 2,000 円 3 歳以上高校生以下 1,000 円

チケット発売日

2020 年 11 月 14 日 (土)

○窓口 9:00～

○電話予約 13:00～

お問い合わせ

(公財) 玉村町文化振興財団 TEL0270-65-0600 【9:00～17:00 (月・祝休)】

〒370-1105 群馬県佐波郡玉村町福島 325 URL <http://www.tamamura-bunka.or.jp> E-mail info@tamamura-bunka.or.jp

エルマーのぼうけん

原作/R.S.ガネット 脚色/川尻泰司 翻訳/渡辺茂男(福音館書店刊)
脚色/川尻泰司 演出/柴崎喜彦 美術/マイヤ・ペトロヴァ
音楽/富貴晴美 照明/鷲崎淳一郎(ライティング・ユニオン)
音響効果/川名 武 振付/小野寺修二 制作/西本勝毅
ブルガリア語翻訳/イヤセン・マズガロフ

出演/人形劇団プーク

～友情とぼうけんのものごとがたり～

エルマー少年は、なかよしのネコのミニから、どうぶつ島にとらわれているかわいそうな子どものリュウの話を引ききました。

「ねえミニ、ぼくは決心した。そのリュウを助けにどうぶつ島にいこう。」

どうぶつ島には、ライオンやトラ、ゴリラたちが住んでいます。エルマーはリュウを助けることができるでしょうか？！

演出にあたって 柴崎喜彦

私がプークの「エルマーのぼうけん」に出会ったのは、今から30年以上前のこと。子どもが父親について話す語り口からスタートするお話を年甲斐も無くワクワクしながら観たことを今でも忘れません。主人公は空を飛ぶ夢を持つ少年。リュウのなかに、大好きな物、日常生活や冒険に欠かせない物を詰め込んでどうぶつ島へ向かいます。危機に出会うたびに、しなやかな心と機転でピンチを乗り切ります。

誰かのためににかをあげたい。自分はこれが好きで、あれが好き。それが人間の根本となる欲求。人が生きる原動力となるのは、その真っ直ぐな思いなのだと思います。

現在は、垣根がなくなり大きく開かれた世界のように見えますが、様々な問題を抱え、内向きな傾向へと進む社会に私たちは押し込めら

ていないでしょうか。だからこそ、子どもたちには、本来持っているしなやかな心を自由に思い切り開放してのびのびと生きて欲しいと思います。

原作の翻訳者であり児童文学者の渡辺茂男さんが「子どもの頃、実在しない生き物を信じる心が心の中に大切な椅子を作り、それらが去った後、実在する大切な人を座らせることができる」と語っていますが、子どもの頃に心を大きく羽ばたかせることが、人間形成にとっても大切な事だと思うのです。

エルマー少年のように夢を叶えようとする心、誰かのために真っ直ぐで強い思いを真摯に伝える、魅力的な舞台をお届けします。

原作者ガネットさんより、メッセージ



▲2018年夏、来日時紀伊國屋ホールにて

私たちの心には、エルマーがいます。彼は飛びたがっています。彼は自分の頭と心を使い、自分で考えることで、空を飛べるし、世界をもっと良い場所にしてできると気付いたのです。あなたにもきっとできます！



写真/濱田英明



人形劇団プークとは・・・

人形劇団プークは1929年に創立し、2019年に劇団創立90周年を迎えました。「こどもからおとなまで楽しめる人形劇を！」との思いで、活動を続けてきました。

1971年には全国の協力者の力をいただき、新宿に人形劇専門劇場『プーク人形劇場』が誕生しました。『プーク人形劇場』では、プークだけでなく、国内外の人形劇公演の他、ジャンルを超えたアーティストの交流の場にもなっています。ここを拠点に、全国での公演、時には海外でも公演をしています。

プークのテレビ部門『スタジオノーヴァ』では『ざわざわ森のガンこちゃん』、『新・三銃士』やCMなどを手がけています。



※新型コロナウイルス感染症の予防対策をしっかりと行いながら開催いたします。

